都の風 MIYAKO NO KAZE

春号
2022年 No.69

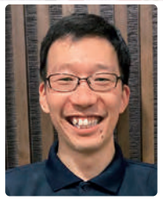
■発行／都会メディカルケアシステム　渡辺　康介
■編集／福利厚生･広報委員会 京都市北区大宮南田尻町59番地
■ホームページ／https://www.miyakokai-kyoto.com/
■お問い合わせ／ Jfl@miyakokai.or.jp

理念
■患者様･ご利用者様の立場にたったキュア（医療）･ケア（介護）を提供いたします
■医療･介護･福祉を通して地域、社会に貢献いたします
■職員の質の向上をはかります

八田　益夫様
大正14年12月1日生まれ　97歳

ショートステイが「第2の我が家」となる為に

ショートステイにしがも　センター長　佐藤　大輔



皆様はじめまして。令和3年4月よりショートステイにしがものセンター長に就任しております佐藤大輔と申します。

ショートステイにしがもは全室個室10床の「泊りの施設」となっています。「また来たいと思う第2の我が家を目指します」を理念に掲げ、ご利用者にはご自宅と同じようにゆったりと過ごして頂き、ご家族には休息の時間を取って頂いて、住み慣れた自宅での生活を送って頂けるよう援助に努めています。また、体調が優れない時や医療サービスが必要な方には診療所の医師や看護師と連携し対応させて頂いています。

私は平成22年5月に都会に入社し、その後ショートステイにしがもへ配属されて約12年の年月が経ち、多くのご利用者･ご家族と関わる機会を頂きました。ご利用者と過ごした時間、ご家族とのやりとり、職員と共にご利用者･ご家族の「思い」に向き合った日々は、私にとって様々な学びや経験をさせて頂く時間となりました。

さて、ショートステイは文字通り「短い期間滞在する場所」です。短い方だと2～3泊。中には1週間程滞在される方もおられます。また、月に1度利用される方もいれば、長年利用されている方では数回利用される方もおられます。食事や入浴といった日常生活において必要な援助はもちろん、レクリエーションや季節に応じた行事を行い、楽しい時間を過ごして頂くようにしています。その中で見られるご利用者･ご家族からの「笑顔」や「ありがとう」の一言は、私達にとって元気の源となっています。また、ご自宅と同じように過ごして頂くことも大切です。ご利用者･ご家族の事を知る、かかわる事はもちろんですが、日々抱えておられる不安や悩みが少しでも和らいでいけるよう、思いに触れ、支えていくことが安心感や信頼に繋がっていくのではないかと思います。月に数日という限られた時間の中で、ショートステイでその方らしく楽しく、そして安心して過ごされる場所となれるよう向き合いたいと思います。

最後になりますが、今後も1人でも多くのご利用者･ご家族に「第2の我が家」と思って頂けるように職員一同努めて参りたいと思います。今後ともよろしくお願い致します。

都の風 川柳

優秀賞

マスクする　入れ歯忘れる　食事会
M・T・女様

佳作

デイ開き　やっと生活　元通り
大坪 昭明 様

年取れば　部屋の掃除を　靴下が
片山 昭二 様

朝の庭　雪かきするや　大雪だ
佐々木 尚江 様

次点

デジタル化　右往左往の　高齢化
ペン 廸子 様

正月や　じいじ留守番　皆出かけ
大坪 昭明 様

マスクなし　注意する人　勇気人
匿名

折り紙の　お内裏様にも　ひなあられ
匿名

※優秀賞 クオカード一〇〇〇円分
佳　作 クオカード五〇〇円分
特別賞 クオカード五〇〇円分をそれぞれ贈呈。
「都の風」では引き続き川柳を募集しています。
ご応募お待ちしています。

【宛先】
〒六〇三-八八三二
京都市北区大宮南田尻町59
医療法人社団都会本部3階
「都の風」編集部宛て

クロスワード「答え」

シオヒガリ（潮干狩り）

1 キ	ジ	2 ユ	3 ツ	4 シ A
カ	■	5 ウ	リ E	ヤ
■	6 マ	ヒ C	■	ツ
7 サ	ガ D	■	8 ト	キ
9 オ B	オ	テ	モ	ン

Facebook QRコード　Instagram QRコード　ホームページ QRコード

管理者向けコーチング研修を受けて

渡辺西賀茂診療所 居宅介護支援事業所　**清水 雄慈**

令和3年12月9日、23日、令和4年1月9日と全3回の日程で当法人にある全14事業所の管理者、役職者を対象とした「管理者向けコーチング研修」を立命館大学から心理学の増田梨花教授をお招きし開催致しました。開催に至った経緯としては、令和2年に発足した組織改革チーム『mix up』のプロジェクトの一つで、スタッフ向けの職場内満足度調査を実施したところ、いくつか法人内の課題が見える結果となりました。その中から職場内の人間関係、上司と部下の在り方、職員間・多職種間でのコミュニケーションが今の課題だと捉え、まずは管理者、指導的立場にあたる者が率先して学ぶ必要があるとの結論に至り、企画開催されました。

研修は、「相手に合わせる」「表現する」「受容する」ということを全3回で学びました。増田教授の講義は、机に座って話を聞くことはほとんどなくコミュニケーションを図りながら、時には絵本を使うなど体験、参加型のプログラムで自身の考えや傾向を知る、相手のことを知るといったことの大切さを楽しみながら学び、また自身の気づき、自己覚知をたくさん与えて下さったことがとても印象的な内容でした。

職場には、性格や考え、バックグラウンドの違う者が集まっています。そんな中、円滑な人間関係を築くためには、双方が相手を知る、知ろうとすることが大切で、自分の思いを一方的に伝えるだけでなく、自分の器を広げ受容するということの考えを学びました。それを指導する立場の者が率先して実践していくことがよりよい人間関係を保った職場になると感じました。また、対人援助技術を必要とする職種の私たちにとって今回の学びは、利用者様の支援にも活かせるものだと考えます。学びを現場で実践する、さらに深掘りしていくということを今後も取り組み続けていきます。

メドルサム基金　**善意の浄財**を、皆様のより良い生活のお手伝いのためのボランティア活動に活用させていただきます。
金沢正春様、村田トク様どうもありがとうございました。

ケアマネジャーから皆様へ

約2年前から世界的に広がった新型コロナウイルス感染症は、今現在も終息する兆しが見えていません。皆様も仕事や家庭の中で感染対策に留意しながら日々過ごしておられることでしょう。

ケアマネジャーの仕事にもこの感染症は大きな影響を与えています。私達ケアマネジャーはご利用者のお宅に伺いご状態やご希望などを確認するモニタリング訪問を特段の理由が無い限りは毎月少なくとも1回は行っていました。

しかしそれも感染拡大防止の観点から「利用者の居宅を訪問しなければならない特段の事情がない場合は、原則として、利用者の居宅には訪問せず、テレビ電話、電話等により必要な確認を行うこととします。」との通達が京都市から発出されるようになりました。

これにより毎月顔を見せていたケアマネジャーが「今月はいかがされていますか?」と電話でご様子伺いをするようになってしまいました。ご利用者の中には「味気ないなあ」「なんや頼りないわ」「親身になってくれてへん」などとご不満に思われている方もおられると思います。ケアマネジャーの方も「どうされているかな」「電話だけで大丈夫かな」と思っています。でもこの措置は、ご利用者とケアマネジャー双方の感染の機会を少しでも減らしお互いを守る大事な決まりなのです。この感染症が落ち着いたら必ず毎月「こんにちは!」とお顔を見に伺います。それまではこの通達が出ている期間には電話等でモニタリングをすることもありますのでどうかご了承ください。尚、会って話を聞いてほしい、訪問しないと状況がわからないなど必要に応じての訪問は感染対策をきちんとした上で行っていますのでどうぞご遠慮なくお申し出ください。

渡辺西賀茂診療所　居宅介護支援事業所

渡辺医院よりお知らせ

4月1日から診療時間と担当医が変更になります。

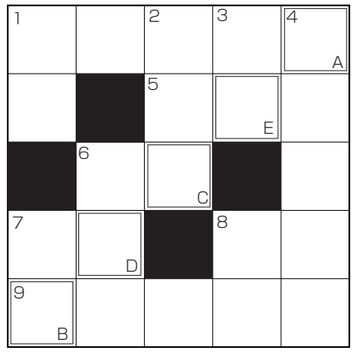
担当医	**月曜日　夜診**	旧　渡辺 都美 医師	**新　池田 葵尚 医師**
	木曜日　午前	旧　乾　将吾 医師	**新　池田 葵尚 医師**

月曜日夜診の診療時間が変更になります。
旧　16時15分～19時15分
新　18時～20時
※受付開始時間は17時25分～です。
詳しくはホームページをご覧ください。

『クロスワード』

出題　小田　正

「問題」
A～Eをつなぐと答えです



〈たてのカギ〉
1 液体が気体になること
2 西空の太陽
3 水面の浮子(うき)を見つめて…
4 高利に泣くこともある
6 真面目な表情
7 これでたてのカギ③をする
8 ○○有り、遠方より来たる

〈よこのカギ〉
1 客を不思議がらせる人
5 昔は斜めの貼り紙をした
6 交通の○○で道は渋滞
7 対岸は名勝嵐山
8 ○○は金なり
9 城の正門